

児童・生徒の現状・課題

・新しいことに挑戦したいと意欲的な児童が多い。つまずきの理由をそのままにしてしまう子が多く、間違いを繰り返す児童が多い。また、自己解決する力が弱い。課題に直面した時、自分で考えるより先に人に答えを求める傾向がある。

学び続ける力を育むための重点目標

○子供たち自身が、なぜ自分で解決しなければいけないのかの価値付けをし、自己解決または自己調整力の育成をめざす。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(6月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	79.8	85	
②問題や解決に取り組んでも上手くいかない時には、上手くいくように違うやり方を試したり、調べ得たりして、粘り強く取り組んでいる。	74.3	78	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(6月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	70.6	75	
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時にはどうすればよいか、児童・生徒が自ら方法を選択し行動できるよう、解決方法を示している。	82.4	85	

総括(7月)

全国学力学習状況調査の結果を見ると、前年度比較して全体的に10%ほど平均正答率が高まった。しかし思考・判断・表現の数値が低く、自分で考え解決していく力が弱い。授業においても、思考を途中であきらめてしまう場面が見られたり、何につまずいているのか理解しようとなかったりする様子が見られる。また、授業改革に向けた協議では、自分で問題を読み取る力が弱いのではないかとの声が上がった。そこで、段階的にヒントを出しながら自己解決していく準備していくことを授業改革の中心にしたい。

具体的な手立て①

各教科、単元のゴールを示し、学習の計画を立て自分で学習をすすめる中で、自己解決できるようにする。(自己解決できる単元を選択する)

具体的な手立て②

つまずくことを想定して、段階的なヒントを出しながら学習に取り組めるようにする。振り返りシートを作成し、間違いの理由を考えられるようにする。

具体的な手立て③

ICT(学習者用デジタル教科書、Padlet,Kahoot,Canva等)や絵、図を用いた資料の掲示を工夫する。資料の中から選択できるようにする。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

実践で使用した資料を、お互いに共有できるフォルダを作成し、うまくいったことや課題にコメントすることによって、全教員が参考にできるようにする。

総括(1月)

